

小坂公民館 遺跡クラブ

武士の世をひらいた女性

北条政子<尼将軍>と鎌倉殿

===承久の乱===

若宮王子の段葛(だんかずら)

1



鶴岡八幡宮 2004年6月撮影

A photograph of a bronze statue depicting two figures in traditional Japanese clothing, standing on a stone pedestal. The figure on the right is taller and holds a long staff. The background shows a park with trees, a traditional Japanese building, and a covered pavilion under a blue sky with clouds.

頼朝と政子の像 蛭ヶ小島(ひるがこじま)

保元の乱

保元元年
(1156) 7月

3年後

平治の乱

平治元(1159)12月

第75代【讃岐国へ配流】

崇徳 上皇

兄

VS

弟

第77代

後白河天皇

天皇家

【傷死】

左大臣
藤原 頼長

弟

藤原家

兄

関白
藤原 忠道

【斬首】

平 忠正

叔父

平 氏

甥

平 清盛

【斬首】

源 為義

父

源 氏

子

源 義朝

【配流】

源 為朝

弟

兄

4時間で
決着

敗者

勝者

天皇家の権力闘争を武士の力で
決着し、**武士の時代が到来する**

【斬首】

院近臣
藤原 信頼

連携

【謀殺】

父

源 義朝

(恩賞)

左馬守

知行国 1 国

【斬首】

兄

源 義平

【伊豆へ配流】

源 頼朝

敗者

【逃亡中自害】

院の乳母の夫
藤原 道憲
(信西)

対立

後白河院

連携

平 清盛

(恩賞)

播磨守

知行国 4 国

差

平 重盛

子

平 頼盛

弟

勝者

勝者・清盛は、**平氏政権樹立**へ向かって、
朝廷や貴族の権力を奪い、日宋貿易で莫大な
利益を得るなど、平氏一族の世が訪れる

平氏と天皇家の関係

④1179年7月病死

⑭倶利伽羅峠の合戦で
大敗(1182年5月)⑥クーデターを
起こし後白河法
皇を幽閉し平氏
政権を樹立
(1179年11月)

(たいらのときのぶ)

平 清盛

姉

時 子

時 忠

妹

滋 子

(しげこ)

(建春門院)

⑩後白河法皇

伊豆の知行国主
(1180年6月頃)
『平家に
あらずんば
人にあらず』⑬1181年閏2月、清盛死去
<後白河法皇院政復活>

(ふじわらのすえなり)

藤原 季成

成 子

平 重盛

平 宗盛

徳 子

①(1172年)
入内

(建礼門院)

平 維盛(これもり)

⑤藤原基房に越前
の知行国を没収さ
れる

第81代 3歳

⑧安徳天皇

壇ノ浦で時子と
共に入水(8歳)②(1176年
病死)

第80代

⑨高倉上皇

⑦京の南郊の鳥羽殿に
幽閉され、**院政を停止**
させられる(1179年11)

(もちひとおう)

以仁王

⑪清盛は、高倉天皇を強引に譲位させ(1180
年) 安徳天皇(3歳)の即位を強行した。
これにより即位の可能性が消えた以仁王
は平氏追討の令旨を発す(1180年4月)



発熱で
死去

平 清盛

平氏追討と 源氏の武士政権へ



木曾義仲



義経

④平清盛はクーデターを起こして後白河法皇の院政を停止し幽閉する(1179年11月)

⑤以仁王、平氏追討を命じる令旨を下す(1180年4月)翌5月殺害される

⑬俱利伽羅峠の合戦で平維盛に勝利(1183年5月)

⑭篠原の合戦で齊藤実盛を討つ(1183年6月)

⑫横田河原の合戦で平氏方に勝利(1181年6月)

⑬藤原泰衡に攻められ、義経自害(1189年4月)

⑭頼朝、平泉を征服奥州藤原氏滅亡(1189年9月)

⑪義経、富士川で合流(1180年10月)約20騎

⑨武蔵国の武士合流で勢力を拡大し鎌倉入り(1180年10月6日)

⑧木曾義仲挙兵(1180年9月)

⑨義仲の嫡男義高が人質中に頼朝に討たれる(1184年4月)

⑮義仲は宇治川で義経軍に敗れ、近江の栗津で討死(1184年1月)

⑮義仲、京都へ侵攻(1183年7月)

⑮義経、壇ノ浦の合戦で平氏を滅亡(1185年3月24日)

京都

⑮義仲討伐のため義経上洛(1183年10月)

⑮義経、奥州へ逃げる(1185年11月)

⑮一の谷の合戦(1184年2月)

⑮屋島の合戦(1185年2月)

①平治の乱(1159年12月)源義朝 平清盛

⑮富士川の合戦で頼朝勝利(1180年10月)

②頼朝は伊豆伊東へ配流(1160年3月)

③北条政子と結婚(1177年)

鎌倉

上総かずさ

⑦頼朝逃げる

⑥石橋山で挙兵し敗北兄宗時戦死(1180年8月)頼朝 300騎 平氏方 3000騎

初代將軍
源 頼朝



鎌倉殿と十三人

將軍独裁

支持

朝廷との交渉力

公平な裁判

東国武士団

1192年7月～1199年1月

2代將軍
源 頼家



將軍独裁

不満

不公平な裁判で
直接裁断を禁止

1199年1月～1203年9月

北条時政は、頼家に將軍の資質なしとし伊豆修善寺へ幽閉し、実朝を擁立(1203年9月)

十三人の
合議制
(1199年4月)

頼朝以来
の武将
京下りの
官人

北条義時、北条時政、安達盛長、梶原景時、比企能員、三浦義澄、和田義盛、足立遠元、八田知家

行政能力のある下級官人が鎌倉へ下向して政務裁判を担当
中原親能、大江広元、三善康信、二階堂行政

3代將軍
源 実朝

<北条時政>

1203年9月 初代執権に就任

1204年7月 頼家を伊豆修善寺にて殺害

1205年7月 政子・義時により伊豆へ追放失脚

1200年1月 梶原景時 敗死

1203年9月 比企能員 謀殺

1205年6月 畠山重忠 敗死

1205年7月 北条時政 失脚

1213年5月 和田義盛 敗死

北条義時
2代執権に



4代將軍
頼 經

北条政子
<尼將軍>

義 時

1213年
政所・侍所
両別当を兼任
し北条氏による
執権体制を
確立

1203年9月～1219年1月

現実から逃避

鶴岡八幡宮での右大臣就任儀式後、甥の公卿により殺害(1219年1月)

(1225年)

東国武士団

- ①御家人の領地を認める
- ②手柄があれば新たな領地を与える
- ③朝廷の官職に推挙する

將
軍

御 恩

御
家
人

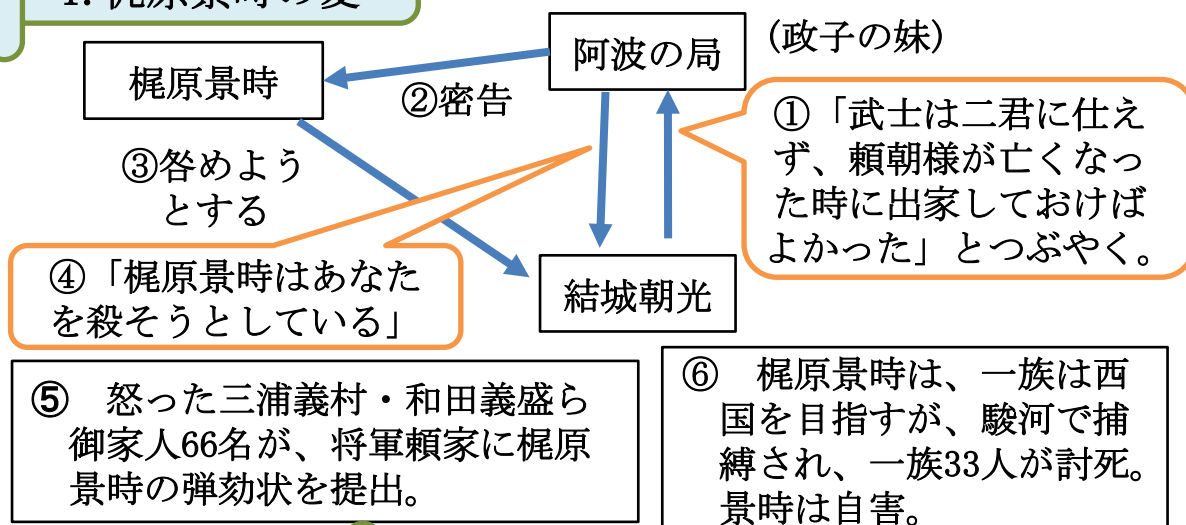
奉 公

- ①將軍のために合戦に参加する
- ②京と鎌倉の守護をする
- ③内裏・幕府・寺社などの修繕

十三人の 合議制 (1199年4月)	頼朝以来 の武将	北条義時、北条時政、安達盛長、梶原景時、比企能員、 三浦義澄、和田義盛、足立遠元、八田知家
	京下りの 官人	行政能力のある下級官人が鎌倉へ下向して政務裁判を担当 中原親能、大江広元、三善康信、二階堂行政

1. 梶原景時の変

建久10年(1199)10月



(ひき よかず)

2. 比企能員の変

建仁3年
(1203)9月

若狭の局が息子(一幡)を生んだことで、北条時政・義時親子は將軍の血筋を比企氏側にとられると思い、自宅に比企能員を呼んで殺害し比企一家を滅ぼした。義時は、妻・姫の前(比企朝宗の娘)と離別する。

(いげただ)

3. 畠山重忠の乱

元久2年
(1205)6月

重忠は清廉潔白な人物で、何も問い詰める理由がなく、義時は困惑しつつも、時政と牧の方の命で武蔵野国・二俣川にて義時に殺害された。

後に、義時・政子は、牧の方が父・義政をそそのかして重忠を殺害するように頼んだことを知り、父・時政と対立を深めていくこととなる。

4. 和田合戦

建暦3年(1213)5月)

和田義盛は、鎌倉幕府の有力御家人で、北条氏に次ぐ地位にあった。義時は、1213年2月、信濃国の豪族・泉親衝(いずみちかひら)が、前將軍・頼家の遺児である千寿丸を鎌倉殿に擁立し、義時を打倒しようと謀反を企てていることを知った。謀反は未然に防止したが、捉えた者の中に、義盛の子兄弟がいた。このことが切っ掛けで、義時と和田義盛が対立し、5月2日、義盛は義時打倒の兵を挙げた。そして、丸一日戦ったが、義盛及び兄弟と一族234人が討ち死にした。

源氏から北条氏の執権政治へ

【北条氏】

伊藤祐親
の娘(?)

初代執権

北条時政

長男

宗 時

2代執権

義 時

次男

阿波局

次女

政 子

長女

娘

(ともまさ)

平賀朝雅

後妻

牧の方

⑨殺害される
(1205年7月)

【源 氏】

初代将軍

頼 朝

(1199年1月
落馬(?)して53歳で急死)

源義朝

義 平

(1160年 平治の乱で捕らえられ六条河原で処刑(20歳)

義 経

(1189年4月 奥州にて自刃する(31歳)

静御前

(義経の愛人、鎌倉で舞う)

源為義

源義賢

源(木曾)義仲

義 高

3代執権

泰 時

(ひき よ(かず)

比企能員

④ 比企氏は頼家
の寝間で北条氏追
討を訴える密談
(1203年9月)

⑦ 頼家回復
比企氏一族の殺害
を知った頼家は時
政誅殺を密令
(1203年9月)

⑤ この話を政子は障子の
後ろで盗み聞きし時政に伝
え、時政は比企氏を自宅へ
呼び出して謀殺(1203年9月)

1 6代執権

守 時

7

① 1203年9月
次期将軍候補
誕生

③時政は家督を実
朝と一幡で分ける
ことを強引に可決

⑧ 時政・政子は修善寺へ
幽閉(1203年9月)その後殺害

⑪ 1219年1月 鶴岡八幡宮
で公暁に暗殺される(28歳)

② 危篤

2代将軍
(18歳)

頼 家

公 暁 (くぎょう)

3代将軍
(12歳)

実 朝

長女

大 姫

(1197年 20歳で病死)

(7歳)

(許嫁)

木曾義高

(1184年4月、大
姫は義高殺害を
知り逃がすが捕
らえられ殺害)

4代将軍(1225年)

(略)

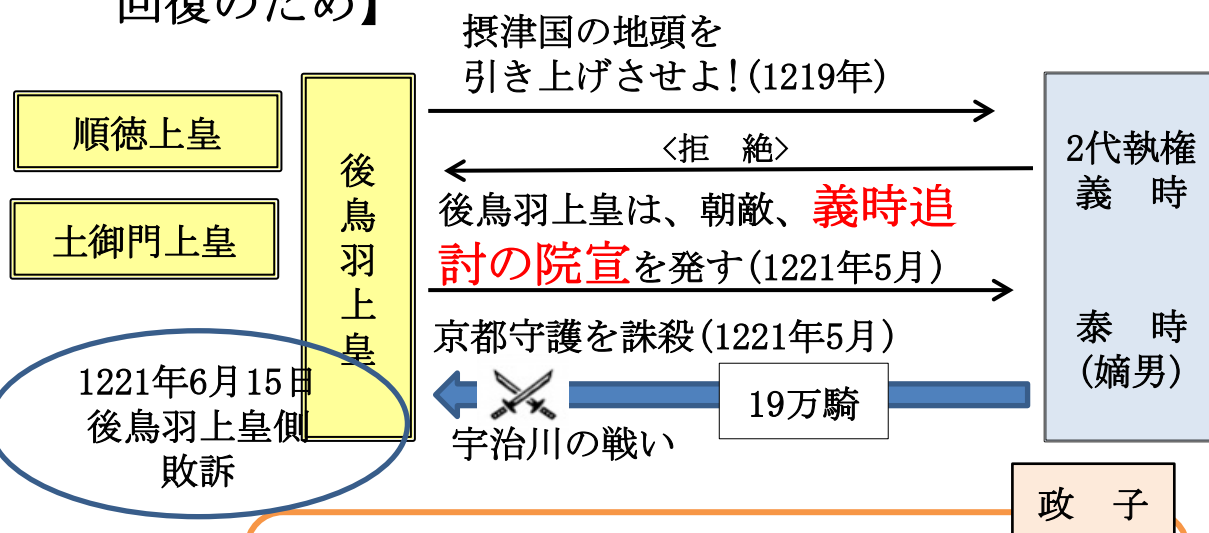
頼 経

頼朝の妹のひ孫(2歳)

===承久の乱===

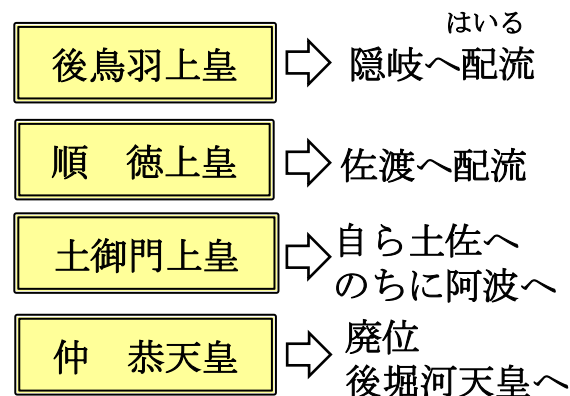
【朝廷の権力 回復のため】

1221年(承久3年) 後鳥羽上皇らは、幕府から朝廷の力を取り戻す目的で2代執権・北条義時と戦った。しかし、後鳥羽上皇は院宣を出し武士の増強を図ろうとしたが、北条政子の演説をきっかけに幕府の力が朝廷を上回り19万の大軍で京都を制圧され敗れた。



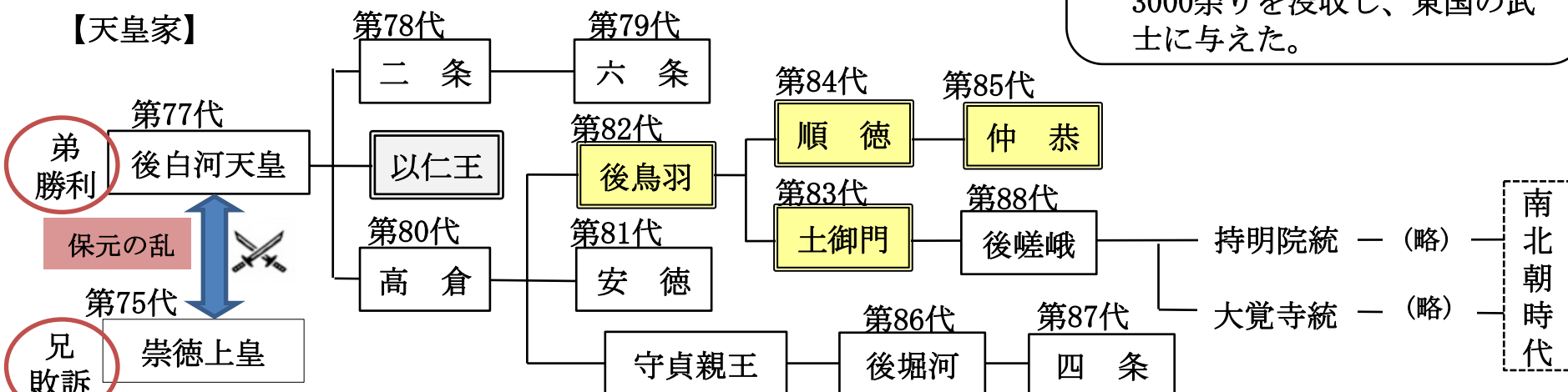
〈尼將軍・北条政子の演説〉
『故頼朝公の恩は山よりも高く、海よりも深い』

【承久の乱後】



- ・六波羅探題を設置し、朝廷を監視下に置く。
- ・上皇方の貴族・武士の所領3000余りを没収し、東国の武士に与えた。

【天皇家】



〈尼將軍・北条政子の演説〉

『皆、心を一つにして聞きなさい。これが私の最後の言葉です。故右大將軍(源頼朝)が朝敵(平家)を征伐し、関東(鎌倉幕府)を創って以来、官位といい、俸禄といい、その恩はすでに山よりも高く、海よりも深いものです。恩に報いる思いが浅いはずはなかろう。しかるに今回、逆臣の讒言によって道理に反した綸旨(りんじ・天子の命令)が下されました。名を惜しむ者は、速やかに藤原秀康・三浦胤義(たねよし)らを討ち取り、三代將軍の眠るこの地を守りなさい。ただし、上皇のもとに参ろうとするもの者は、ただ今すぐに申し出るとよい』

※讒言(ざんげん)…他人を陥れようと事実を曲げて告げ口をすること

承久3年(1221)5月22日早朝、義時の嫡男・泰時が18騎が出撃
東海道⇒北条泰時、時房(10万騎)
東山道⇒武田信光(5万騎)
北陸道⇒北条朝時(4万騎)

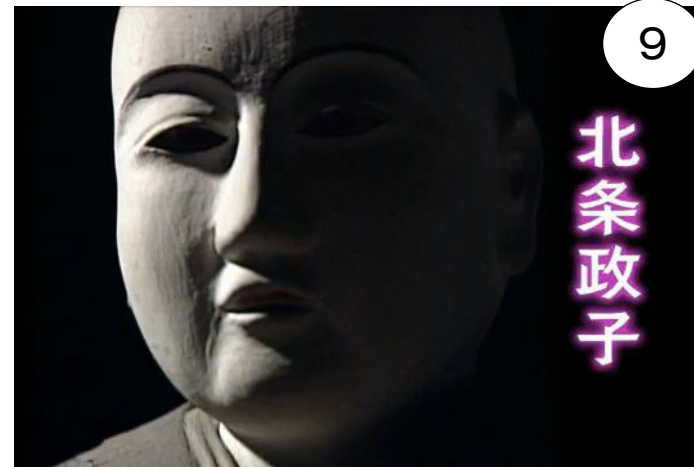
なぎの葉

- ・筋が縦に入っていて切れない
- ・表裏の差があまりない
- ・政子は手鏡の裏に大事に入れていた

悪女？ 1182年11月

頼朝は、政子が身ごもっている時、亀の前という美人で柔和な女性を家臣の家に住まわせ浮気していた。そのことを知った政子は激怒し、牧宗親に命じて家臣の家を打ち壊させた。その事を知った頼朝は怒って、壊した牧宗親の鬘(もとどり)を切り捨てた。北条一族は怒って伊豆へ戻ったが、義時だけは鎌倉に残り、頼朝から称賛を得た。

1186年 義経の愛人・静御前を鎌倉に呼び、頼朝と政子の前で舞を舞った。その舞は、義経を恋い慕う舞であった。これに頼朝が怒り出したが、政子は、石橋山の戦いで敗報を受けた時の自分と同じと過去を思い静御前に同情して頼朝をなだめ、可哀そうにと、着物など多くの財宝を持たせて京へ帰らせた。



9

北条政子

1157年 北条時政の長女として誕生
1177年 10歳年上の源頼朝と結婚

2男2女を産む

1178年 大姫
1182年 二代將軍・頼家
1186年 乙姫
1192年 三代將軍・実朝

1225年 69歳で死去
お墓は鎌倉の寿福寺



寿福寺の政子のお墓

朝廷と幕府が武力衝突した
「承久の乱」は、

白河上皇から
鳥羽上皇・後白河上皇と
続いてきた院政の終わりを告げ、

以降、江戸時代まで続く
武士の時代を創出した

ご清聴ありがとうございました。

